

ヌカルミクチキレ(未記載種) Gen. et sp.

【選定理由】

本種は和田ら(1996)で和名だけが提唱された未記載種である。内湾奥の泥干潟にヨコイトカケギリ(トウガタガイ科)やカワグチツボ、エドガワミズゴマツボと共に生息する。三河湾、伊勢湾の干潟から潮下帯に広く分布するヨコイトカケギリと比べて、本種は生息範囲が狭く、県内では現在汐川干潟の奥部の泥干潟でのみ生息が確認されているにすぎない(藤岡・木村,2000)。本種は未記載種であるが、本県における前述のような生息環境は比較的調査が行われたので、前回の情報不足からランク付けする。和田ほか(1996)では、危険とランクされている。

【形態】

殻長約 4mm 微小な細いさなぎ型の貝。殻は黄色褐色で成長脈は弱く、光沢が強い。殻口軸唇には弱い襞が 1 本ある。肉眼で見るとカワグチツボとよく似ているので混同されやすい。



汐川干潟, 1995年8月3日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように生息場所は限られていて、生息が確認されたのは汐川干潟のみであるが、健全な個体群の生息が確認されている。死殻の採集記録があるのは、美浜町布土(河合,1998)のみである。

【世界及び国内の分布】

日本でのみ発見されている。三河湾、伊勢湾、瀬戸内海に分布する。

【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したように県内では、生息地は汐川干潟のみで、更に詳細な生息調査が必要である。

県内分布図



【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

藤岡えり子・木村妙子, 2000. 三河湾奥部汐川干潟の 1998 年春季における底生動物相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 10: 31-39.

河合秀高, 1998. 内湾性稀少種サザナミツボの新産地. かきつばた, 24: 16-17. 名古屋貝類談話会.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.